

特別な支援を要する児童生徒への支援体制の確立に向けて

～特別支援教育コーディネーター研修会から～

8月6日(水)、東山地域交流センターにおいて特別支援教育コーディネーター研修会が行われました。本研修会は平成24年度が悉皆研修の最終年度でしたが、継続希望の声が多く、昨年度から希望研修として開催しているものです。

午前中は、柿崎 明広 特別支援教育エリアコーディネーターによる講義・演習、午後は事例紹介とグループ協議を行い、特別な支援を要する児童生徒への支援体制の確立に向けて充実した研修とすることができました。

講義「『いわて特別支援教育推進プラン』 (平成25年11月策定)の推進について」

◆ 本推進プランのキーワード

<キーワード1> つなぐ

—就学から卒業後までの一貫した支援の充実—

- 早期からの教育相談・支援体制の整備
- 卒業後を見据えた支援の充実

<キーワード2> いかす

—各校種における指導・支援の充実—

- 地域資源を活用した指導・支援の充実
- 多様なニーズに対応した指導・支援の充実
- 交流及び共同学習の充実

<キーワード3> 支える

—教育環境の充実・県民理解の促進—

- 教職員等の専門性の向上
- 多様なニーズに対応した教育諸条件の充実
- 共生社会の形成に向けた県民の理解・啓発

◆ これから求められると思われること

- ① 早期支援の充実や他機関との連携
- ② 小・中学校の特別支援教育に関する機能強化と特別支援学級担当者のレベルアップ
- ③ 特別支援学校とのさらなる連携

講義・演習「『個別の教育支援計画』 の作成及び活用について」

各校から持参した「個別の指導計画」等の資料を利用し、「個別の教育支援計画」を作成する演習を行いました。

様式は奥州市と一関市で使用しているものを提供しましたが、「記入例がとても参考になった」「手掛けてみるとそれほど大変な作業ではないことが分かった」等、好評でした。作成が必要な児童・生徒については必ず作成し、効果的に活用していくよう引き続きよろしくお願ひします。



★個別の教育支援計画とは…
「他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画」のことを指します。

事例紹介「校内体制による指導の実際」

～一関市立東山小学校の効果的な取組から～

指導教諭(特別支援教育コーディネーター) 佐藤智恵子 先生

◆ 年度初めの校内研究会で伝えたこと

—テーマ「特別支援教育 はじめのいっぽ!」—

- (1) 特別支援教育の基礎知識
 - ・ (在籍する学級を問わず) 特別の支援を必要としている児童・生徒に対して行う
 - ・ 分かりやすい授業「授業のユニバーサルデザイン」
- (2) 通常学級担任の基礎知識
 - ・ 「発達障がいを知る」ことからスタート
 - ・ 担任に気付いてほしい子ども3タイプ
 - ①学習障がい
 - ②注意欠損/多動性障がい
 - ③自閉症スペクトラム
- (3) 特別支援教育の流れ(年間計画)
 - ・ いつ・誰が・何をするか
 - ・ 個別の指導計画・教育支援計画の作成及び見直し
 - ・ 関係機関との連携
 - ・ 通常学級の児童への就学支援



◆ 支援の実際—2つの事例から—

- 事例1：保護者の気持ちに寄り添って
- 事例2：4つの学校見学を勧めて

佐藤先生の発表を通して、校内の支援体制がどうあればよいか具体的なイメージをもつことができました。また、2つの事例による支援の実際の紹介、校内研究会資料の提供、参考図書を紹介等、大変参考になりました。

☆参加者からの感想(一部抜粋)☆

- ・ 校内での研修の進め方や内容がとても参考になった。年度初めに校内で共通理解することは、とても大切なことだと感じた。
- ・ 事例を挙げて実際の校内体制についてお話ししていただいたので、午前受けた講義の内容が具体的に見えてよかった。
- ・ 小学校のきめ細やかな手立てやしっかりと組織で対応されている様子がよく伝わってきた。「特別な支援は、フェイドアウトが基本」という姿勢に共感した。